『平和と生活』を守る闘い
メーデー39年の歴史

ことしも働くものの祭典メーデーが近まってきた。大地評ではことしにはいるや、メーデー準備のために着々と準備をすすめてきたが地方選挙でもり上つた中でひらかれることしのメーデーは、昨年を上回る盛大さが予想されている。とくに、参議院選の闘いの中で迎えるメーデーだけに、もつとも意義深いものにしようと周到な計画が立てられている。メーデーにさきがけ二十五、六日には前夜祭も華々しくひらかれることになつている。メーデーを前に、この意義をもつと深めるため、もう一度メーデーの歴史をふりかえつてみよう。

戦前篇

○…日本で始めてメーデーがおこなわれたのは三十九年前の大正九年五月二日だつた。東京上野公園に集つた約五千の労働者は「八時間労働制の実施」「最低賃金法の制定」「失業防止」「悪法治安警察法の撤廃」などを要求のスローガンとしてかかげていた。二年前ロシア革命の影響をうけておこつた米騒動をきつかけに大きな高まりを示した日本の労働運動は、国際的にメーデーがおこなわれだしてから三十年目にして、メーデーを日本の労働者のものにしたのだつた。この年東京市電の労働者八千人が六日間のストに入り、八幡製鉄二万三千の労働者は熔鉱炉の火を消すなどのはげしい闘いに入つた。

○…こうして始まつたメーデーは回を重ねるごとに広がり、第三回（大正十一年）には全国十三都市でおこなわれたが、それにつれて政府の弾圧もはげしさの度を加えてきた。第四回のときは前日に労働運動指導者、社会運動家など二百余人を検束して弾圧したが、この年の九月一日におこつた関東大震災には労働者九人と社会主義者大杉栄らが虐殺され、さらに全国各地で殺された朝鮮人、中国人は六千数百人におよんだ。だが、第八回（昭和二年）には田中内閣の中国革命干渉政策に反対し「シナから手をひけ」のスローガンをかかげて全国七十八カ所、四万二千人が参加した。これが戦前最大のメーデーであつた。

○…このように、年ごとに高まる労働者をおそれた政府は、昭和三年共産党、労農党、評議会などを解散させる暴挙にで、第十四回以後は右派幹部を手なづけてメーデーを分裂させてしまつた。そして第十六回（昭和十年）を最後に、翌昭和十一年には二・二六事件を口実に屋外集会を禁じメーデーをつぶしてしまつたのである。戦後は警察国家となり労働運動の買収とゴマカシが横行だし、それ以後のメーデーは、すべてわれわれのたたかいの一里塚であり、ファシシズム反対の闘いの力関係のバロメーターとなつた。年ごとに数が減つていく私たちの隊伍が、八番街をぬけてユニオン・スクエアの伝統的なデモンストレーションに向つて行進していくとき、わたしたちはわが国の政治を支配し掌握するに至つた原子外交家どもによつて、アメリカの労働運動がいかに打撃を与えられ、傷つけられ脅迫されているかの生きた証拠をみるおもいだつた。

しかし、一九四六年から五二年にいたるまでの毎年、この市の労働者はメーデーには仕事をやめ数千人があいよつて行進した。五二年には全国にわたつてテロルの嵐が吹きあれたが、それでもなお、二万五千人以上の労働者が「平和、自由、平等、ファッシズムへかりたてることを止めよ」の要求をかかげてデモ行進をおこなつた。白人も黒人もユダヤ教徒もキリスト教徒も結集してユニオン・スクエアへと歩いたのだつた。数百の軍装備の警官にとりかこまれながら……。

だが、このメーデーは最後のものとなつた。私たちのメーデーの歴史とスケジュールとその成果をかけば、戦後のアメリカ史がわかるようにさえおもわれる。

こんにちでは、労働者のいるところ、解放運動、労働者階級の運動のあるところ、メーデーは全世界の労働者階級の連帯の日となつている。しかるに、このメーデーが発生した国、輝かしい戦闘的なわがシカゴ労働者がこの労働者の祭日を誕生させ、ついには国際労働者階級のものにしたこのアメリカではいまメーデーは死の苦痛をもつて禁圧されているのだ。

しかし、いつまでもこういうことがつづきはしないし、アメリカはこういう原子力の気ちがいどもが自由に、地上にあらゆるものを丸はだかになるまで掠奪されることを許してはおかない。

メーデーを誕生させた労働者階級の伝統が死なないかぎり、メーデーのデモ行進の伝統は決してアメリカからなくなりはしないだろう

（註＝ハワード・ファースト氏はアメリカの作家、レーニン平和賞受賞者）

メーデー誕生の国で
ハワード・ファースト

戦後篇

○…戦時下の〝冬の時代〟をきりぬけてきた労働者は、終戦の翌年（昭和二十一年）復活第一回、通算第十七回メーデーを東京人民広場の五十万をはじめ、全国で二百七十万という大動員で迎えた。長い戦争で生活は疲弊し国民は飢えしかもひどいインフレでどん底にたたきこまれていたが、労働者は「民主日本を建設するのはおれたちの団結の力だ」という確信にあふれていた。この年の五月十九日には東京の労働者は多くの市民と共に〝食糧メーデー〟を行い政府を揺り動かした。

○…回を重ねるごとに参加者は労働者はもちろんのこと市民、商人農民、学生と国民的な規模の広がりをみせていたが、第二十二回（昭和二十六年）を前に政府は人民広場の使用禁止した。労働者は分散メーデーをおこなつたが、〝怒りはその翌年にせの独立をうたう講和条約〟への怒りと重なり、第二十三回〝血のメーデー〟となつて爆発したのだつた。さらに第二十四回は「朝鮮戦争をやめろ」の声で迎え、第二十五回は「原水爆ごめんだ」の旗じるしをかかげて東京だけでも六十万人が参加した第二十六回は「統一と団結」の合言葉で集り、この年にはソ連、中国、ルーマニヤのメーデーに日本の労働者が参加して国際連帯の巨歩をふみだしたのである。

○…第二十七回には、さらに多くの労働代表が、海外メーデーに参加したが、国内においても規模、内容ともに充実したメーデーとなり、昨年の第二十九回には全国で八百カ所、参加者は四百六十万を数えた。「核武装反対」「ミサイル基地化反対」「勤務評定反対」のスローガンをかかげた労働者はメーデーに結集した力をもつて昨年秋には「警職法改悪案」を粉砕した。そして三十回を迎えることしは、「最低賃金制の確立」「ILO条約即時批准」「労働時間短縮」などのたたかいの中で「安保条約廃棄」と「中立日本」を築くための力として、労働者はいま力強くメーデーを準備している。

メーデーを迎える
世界の労働者の表情

世界最初のメーデー（一八八六年五月一日）がアメリカで闘われてから今年は七十三年目にあたる。八時間労働を要求して起上つた当時からみると、労働者の要求は多面的になり、メーデーに結集する世界各国の労働者の数も年々ふえまた労働者の志気も高まつているが、今年のメーデーを迎える世界の労働者の表情はどうだろうか。

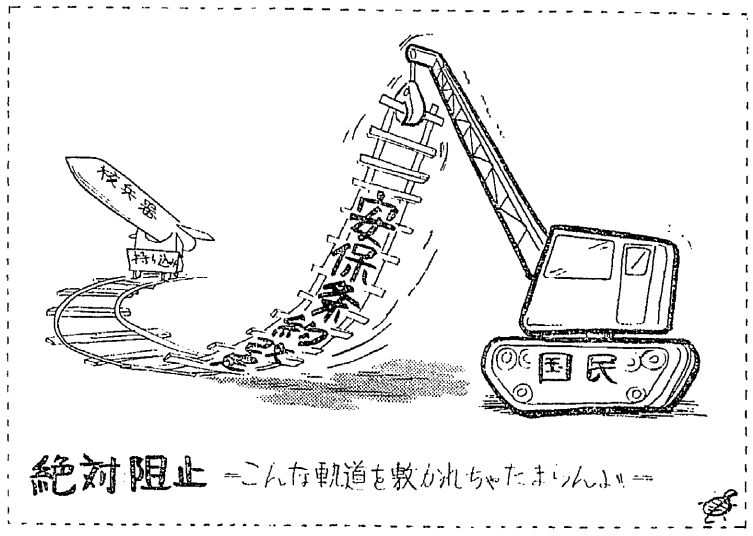
【イラク】＝今年からは公然とメーデーを祝うことができる喜びをかくせないでいる。長い苦しい闘いの結果、昨年七月革命に成功した。さらにイラク共和国を転覆させようとした外国の策動を未然に封じ、その中で、組合の存在を政府に認めさせたからだ。バグダッドの町をはじめ、イラク全土は労働者の祭典でにぎわうだろう。

【フランス】＝去年はメーデーの集会やデモは社会不安を招くという理由で一切禁止された。しかしパリでは労働者たちは職業紹介所の前で警官隊にとりかこまれながらメーデーの集会を開き、賃上げやアルジェリアの戦争の即時停止を要求した。ことしもドゴール政権の出現でメーデーの集会やデモは禁止されそうだ。だが労働者の表情は明るい。それは今年になつてから一時沈たいした労働者の闘いが大きく盛上り、三月八日と十五日の地方選挙では労働者階級を中心とする民主勢力が再び勝利をおさめることができたからだ。フランス労働者は賃上げと社会保障防衛の闘争の中でメーデーを迎えることになるだろう。

【ソ連】＝一月の第二十一回共産党大会で採択された新七カ年計画を熱烈に支持し、労働者はこの計画を五カ年で実現し社会主義から共産主義に向つて進んでいこうと勢いこんでいる。どうやら今年は赤の広場は人工衛星にかわつて新七カ年計画の早期達成を誓うプラカードやのぼりで埋まりそうだ。

【中国】＝メーデーに大パレードが展開される天安門広場は改装に大わらわ。今年は中華人民共和国建国十周年のお祝いが盛大に催されるとあつて、メーデーはさしづめその前祝い。今年は農民もメーデーを待つている。人民公社になつてから初めて迎えるメーデーを生産目標の超過達成で祝おうとはりきつており、また中国総工会では中国労働者の発展ぶりをみてもらうため外国の仲間の代表を招待している。

【イギリス】＝メーデーの祭典は五月の第一日曜日に行われるので今年は五月三日がメーデーにあたる。五月中頃、イギリスの総選挙が行われるので、日本と同様選挙メーデーというところ。昨年ハイド・パークで行われたメーデーの集会は最も戦闘的だといわれた。ロンドン北部のセント・パンクラス自治区では革新派の議員の奮闘で時ならぬ市役所の屋上に赤旗がなびくという劇的な一幕があつた。今年は失業者の急増がめだつているので、失業反対の一大デモンストレーションがくりひろげられるかも知れない。



メーデー・スローガン

総評、全労、新産別、中立系の各労組代表でつくられている第三十回中央メーデー実行委員会は、小委員会でことしの統一メーデーの中心スローガンをつぎのように決めた。

◈大巾賃上げ、業者間協定反対、完全なる最賃制の確立！

◈社会保障制度の確立、ILO条約の批准、労働基本権を守ろう！

◈安保条約改訂反対、日中国交と領土の完全回復、岸内閣打倒！

ソ連共産党第21大会と第30回メーデー

宮浦支部　田島宏康

「同志諸君！　ソビエト国民は党の指導のもとにきわめて高い発展水準に到達し、経済、社会、政治生活のすべての部門できわめて壮大な改造をなしとげたので、今やわが国は、その発展の新しい重要な時期――即ち、共産主義社会の建設を広く展開する時期――にふみいる可能性を与えられている」

「当面する七カ年の根本的な問題は――資本主義と社会主義との平和な経済競争で、最短期間に最大の効果をあげる、という問題である」

「中央委員会（昨年）十一月総会ののち、一九六五年に至るソ連国民経済発展の目標数字に関する報告テーゼの審議が大会を前にひかえその全国で広範にくりひろげられた。

全国にわたるテーゼの審議の過程で、工場や建設物、コルホーズやソフォーズ、学術研究機関や教育施設、陸海軍やソビエト諸機関などで九十六万八千回以上の集会が開かれている。これらの集会には七千万人以上の人々が参加した。四百六十七万二千人もの同志諸君がこれらの集会の席上で討議を行い意見と補足と提案を出した。そのほか、中央および地方の党機関およびソビエト機関、新聞、雑誌の編集局、ラジオ、テレビの編集局は、目標数字に関する報告テーゼのさまざまな部門にわたつての意見や提案を内容としている手紙や論文を、六十五万通以上も勤労者からうけとつており、そのうち三十万通以上は発表された」

これは今年の一月下旬にひらかれたソ連共産党二十一回大会においての、七カ年計画に関するフルシチョフ報告の冒頭部分であります。そして彼は、今から十五年たてば、工業生産ならびに農業生産の総量においてだけでなく、住民ひとり当りの生産高においても、すべての国を凌駕して第一位にたつであろうし、今から七年後には、住民ひとり当りの生産高はヨーロッパ第一位を占める見透しをたてました。

またこれから九年たてば、ソ連は全産業に週三十から三十五時間制を導入し、世界中でもつとも短い労働時間をもつことになり、それに加えて各目、実質賃金は着実にふえるであろうと決議しました。

ソ連の労働者諸君が、このように自信をもち、共産主義建設に前進しているとき、われわれ資本主義国家の労働者は、全般的経済恐慌の悲劇的な諸結果をこうむり、幾百万の労働者が失業と貧乏の悲惨な苦しみを味わつております。私どもの周囲を見ただけでもどうでしょう。

昭和二十六年には二百五十名しかいなかつた大牟田の失対労務者は炭鉱が首切るたびに増大し、現在では五千名に達しようとしております。

「生活は？」といえば、大産業に働いている私たちでさえも、八時労働だけの稼ぎではできず、週二十時間もの残業をしなければならないし、週七十時間労働はザラであります。

この対比は、もつとも進歩的な思想家たちが、過去百年以来叫びつづけ、労働者の行動力によつて支えられてきた「資本主義社会は偶然的にできたのでなく、必然的に圧倒的多数の人々を貧乏においやり、国家の運営から労働者をしめだし、破滅的な周期的恐慌にゆさぶられ、戦争によつてかきみだされる社会にほかならない」「造りだされた富が、すべて、何らかの形で労働者の手にかえつてくる社会主義社会においてだけ、一人ひとりの労働者は、無限の物質的、精神的富の創造者としての自分の能力を全面的に発展させることができ、自然を征服し、無限の繁栄の地平線をめざして前進することができるのだ」ということを如実に物語つております。

これらの事実は、資本主義の擁護者たちが混乱した先入観や疑惑や不安を利用した反共主義や、反ソ主義、日和見主義といつた、社会発展を阻害する思想的障害を徐々により除いております。

この社会主義の勝利は、資本主義列強がこれを孤立させ打倒しようとする圧力から身を守るためにはただの一世代で良かつたし、第二次世界大戦は独占資本のくいあいであつたはずのものが、十億にのぼる人々を解放しました。

社会主義陣営を構成しているこれらの人々は平和のとりでとして、全世界の労働者をはげましております。

この時に当り、ソ連の七カ年計画は私ども資本主義世界の労働者に明るい見透しを与え、社会主義諸国の恐慌を知らない発展と共に、大きなはげましとなつております。このはげましにこたえて、いま私たちがおかれている周囲の情勢を正しくみつめ、戦争をなくし、貧乏と失業を追放して前進する固いスクラムで、かがやかしいメーデーをむかえましよう。